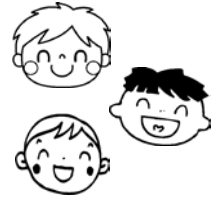




かいのき児童クラブ便り



H28. 4月

子どもたちの豊かな学びのために

春号

お腹も心もまんぞく！班での食事作り



春休み最後の日は、食事作りやお化け屋敷などをして、一日思いっきり楽しみました。食事作りは前日までに各班で作るものを決め、食材やレシピを書き出して準備。食材の買い物とご飯の準備は指導員が担当したものの、「自分たちでやりきった」という体験ができるように、あとは全て子どもたちに委ねました。メニューは焼きそば、チャーハン、ピザトースト、お好み焼き、ぎょうざ等々、班によってさまざま。

当日は調理にかかる時間も考え、スタートする時間も班によってまちまちです。

何度もレシピを見ながら、溶き卵の中にごはんを入れ、それを炒めてチャーハンを作っている班。初めてで真剣な表情の班長。「はしっこのキャベツを真ん中に、真ん中のキャベツをはしっこに」と火が通りやすくなるように声をかけている子もいます。

ピザトーストはホットプレートでの調理のため、パンにのせた玉葱やピーマンが半生状態。ピーマンや玉葱、チーズは別に焼くことに…偶然チーズビスケットもでき、たくさん作っては他の班の人にもおすそわけ。

「ぬるぬるすべる！」と言いながら苦労して長芋をすりおろして入れたお好み焼きはふわふわ。指導員班のお好み焼きと味比べ。「うん、どっちもおいしい！」

みんなで手際よく餃子を作った班は、残った餃子の具をハンバーグにして、ハンバーグ丼、さらにおにぎりもでき「はじけそうなくらいおいしかった！」とHくん。

班での活動は仲間と関わる力も育ててくれます。野菜の苦手な子には「何だったら食べられる？」と気遣い「肉と麺なら食べられる」「じゃあ焼きそばにしよう」とメニューを決めたり、一足先に学校が始まり、食事作りが終わった頃にクラブに到着した子には、さっとお皿をとりに行っておける姿も見られました。班長は状況を判断し、みんなに指示したり、できたものを平等に分けたりすることも必要となってきます。

調理中は野菜の切りくずが机の上や床に散乱。でも班長が声をかけ、みんなで協力して小さなごみまで拾い調理後の掃除の必要なし！「みんなでやったからできた。みんなと一緒にやって楽しかった」という満足感が伝わってきました。

(文責 土田)

遊びから学ぶ



泥団子カップケーキ。

実は、ペットボトルのキャップに作られています。かなり小さいものですが、ここに至るまでに足かけ2年かかっています。もちろん子どもたちは、これを最初から目指していたわけでは、ありません。はじめは、毎年春になると低学年が始める光る泥団子から始まりました。団子をピカピカにするためには、サラ砂(サラサラな砂)が必要です。そのサラ砂をいかに細かく作るか？また細かい砂ばかりで団子を作ると、中の湿り具合と外から乾燥するスピードなどの問題なのか壊れやすくなったりします。光りかけると壊れたり、壊れなくても光り方に納得がいかなかったり、自ら壊してしまう場面も見られました。

何人かは、そこで涙が出てあきらめてしまうのですがこのカップケーキに辿りついた子たちは、壊れても光らなくてもあきらめませんでした。泥団子は、何度も何度も砂を掛け磨くので、いくつもの層になっているのです。壊れると中の様子を見ているいろいろ考えていました。

そのうちペットボトルのキャップに作ったり、プリンカップに作ったり、色をつけるために考えたりいろんなことを試していました。そのうち自分たちだけじゃなく他の人にも泥団子で喜んでもらいたいと、そこから泥団子屋さんごっこに発展していきました。団子屋さんをすると作業中心の遊びから人が加わり、またもめ事も起こります。ここでもめごとを解決する力を学びました。相手の気持ちも考えます。

また新しい子が入ってくると上手になった子が教えてあげる姿も見られるようになりました。異年齢が集まると泥団子遊びも低学年の泥んこ遊びではありません。ひびが入りしょげていると『大丈夫！大丈夫！直してあげる。』と上手な子は、修理までできるようになってきました。サラ砂作りからどんどん細かな砂を作り始めついには、サラ粉になりました。サラ粉は、もう水を加えるとドロドロの液状のものになりました。

おやつにホットケーキを食べた日ホイップクリームの入れ物を見てひらめいた Y ちゃん。『そのホイップの入れ物ほしい。』と指導員に頼みに来ました。何をするのかよくわからないまま入れ物を洗いましたが、なかなか油が残ってとれません。乳製品だけに衛生上遊びには、無理だと判断し、Y ちゃんに『ごめんね。洗ったけどきれいにならんかったわ。』と謝りました。次の日 Y ちゃんは、家からホイップの絞り袋を持ってきていました。そこでやっと指導員も何をしたかったのか分かりました。それから Y ちゃんと仲間たちは、何度も何度も水の分量を調整しながら、泥を絞り出すことを研究していました。しかし絞り出したは、いいけどすぐに流れて形が崩れてしまいます。写真のように絞り出した形のまま乾燥するのに本当に苦労していました。光る泥団子からどんどん変化をしながら、頭を使い、手を使い、心を使い、発展してきました。まさに遊びが子どもたちの豊かな学びになっていると私たち指導員も学ばせてもらいました。今後またここから…乞うご期待！！です。(高橋)

お願い(報告会参加・子ども帰りについて)

報告会では、写真を見ながら子どもたちの活動の様子や指導員がその時何を考え子どもたちに接していたか？などをお知らせする大切な会です。また家で子どもさんが話した内容が『こういうことだったのかあ。』と納得できより一層親子でかいのきでの出来事を共有して頂けるいいチャンスだと思います。ぜひご参加ください。

*子どもだけで帰るときは、退所時間を連絡帳にご記入ください。かいのきへなかなかお迎えに来られない保護者の方は、メールや連絡帳を活用し、何でも指導員へお知らせください。